

人の値うち

12/9（火）の人権学習では、江口いとさんの詩「人の値うち」をもとに、差別や偏見について考えました。人を外見や肩書き、生まれた所で差別することは、決して許されることではありません。このいとさんの思いを受けて、今までの自分を思い起こし、知らないうちに言ってしまったこと、やってしまったことはあるのか振り返った人もいました。そして、これから自分が何をどうしていくのか、一人一人、具体的に考えられました。

差別をなくす人になってほしい。差別の場面に出会ったとき、それは間違いだと正せる人になってほしい。私もそんな人でありたいし、皆さんもそんな人になってほしいと願っています。

みんなの振り返りなどから（一部抜粋）

- 偏見をなくす。他人に流されず、自分の意志をもっておくことが大事。
- 本当かどうか分からないことは信じず、決めつけや差別にならないか考えて言う。
- 私も勝手に理由を決めて人を傷つけてしまったことがあるかもしれないので、自分の行動や言動をよく見直して行動したい。
- 相手の気持ちも考える。自分は外見だけで差別しないようにする。
- 決めつけをしないようにする。相手に言う前に相手が傷つかないか考えて言うようにする。
- 気づかずに言ってしまった言葉で相手を傷つけているかもしれないので、相手の気持ちを考えて発言していきたい。自分の発言に責任をもっていきたい。
- 差別はうわさから始まるとわかった。私は人を外見で判断しないようにする。
- 人の値うちは外見や住む場所で決まらない。相手がこれを言ったらどういう気持ちになるかを判断して発言する。言ってしまったら後戻りはできない。
- 人のことを考えないといけないことを知った。
- 差別をなくそうとがんばってくれる人がいるから、改めて気づくことができる。江口さんはすごい。今自分がやったことは本当に大丈夫か考え、少しでも減らせるようになりたい。
- 相手にいやなことを言わないよう気をつける。話すときは自分も相手も気をつけるようにしたい。
- 差別は無意識のうちにしていることが多い。
- 人々の差別はうわさ、決めつけから生まれている。悪いうわさは信じないようにしたり、それが本当かを考えたりして、無意識な差別は起こさない。良くないうわさは、そもそも流さず、周りの人も信じないようにするべきだ。
- これからは人を見た目で判断しないようにしたい。
- 「その言葉、行動は相手にとって良いのか悪いのか考える」「人の事情を考える」について、これから気をつけて生活していきたい。
- 決めつけをしないように、言う前に立ち止まって考えていきたい。私も人の意見やうわさに惑わされず、自分が正しいと思うことをつらぬいて生きていきたい。
- 人種や肩書きなどで人を決めつけるべきではない。差別の火種となる決めつけやうわさを自分が流さず、相手のことをよく知って判断する。
- まず相手のことをよく知ることが大事。すぐに決めつけず、相手の状態や事情などを見て、優しく声をかけられたらな、と思う。
- 人には誰でも同じように接すること。人をショックにさせない方法を勉強しておく。

